

◆現在展示飼育研究中の深海生物



サツマハオリムシ

世界で最も浅いところにすむハオリムシで鹿児島湾の100m地点で発見された。硫化水素をエネルギー源とするバクテリアと共生。口や消化器官を持たない不思議な生物。



トウロウオハラエビ

体長3cm程度の小さなエビ。生息地はハワイ沖ロイヒ海山の北マリアナ諸島海域、水深450～1600mの熱水噴出孔近辺。



オオマユイガイ

殻長約12cm。熱水噴出域付近の水深約460m地点に生息する二枚貝。海底の岩やハオリムシの群集に足糸と呼ばれる糸を使い付着する。鰓に共生細菌がいる可能性もある。



ネッスイハナカゴ属の一種

殻自体の大きさは1cm弱。伊豆・小笠原弧、マリアナ弧、沖縄トラフなどの熱水域に生息。本体は殻の中に収まっているが、タンポポの綿毛のように見える「蔓脚」を使って、エサとなる微小な生物を水中からすくい取る。蔓客に増殖するバクテリアを捕食している可能性もある。



ユノハナガニ

海底火山や海嶺の熱水噴出孔の周囲に高密度で生息し、他の生物と共に化学合成生態系を形成。肉食性で、ハオリムシなどを捕食する。光の届かない深海に適応して複眼が退化した。